



きゅうひゃくさんじゅうぎんこう や はた し てん

## 旧百三十銀行八幡支店 1 棟

市指定有形文化財（建造物）

昭和61年2月1日指定  
八幡東区西本町一丁目20番2号  
北緯 33° 52' 05  
東経 130° 47' 59

この建物は、大正4年（1915）12月、辰野金吾の主宰する辰野・片岡事務所が設計したもので、営業室・金庫室・管理室からなる鉄筋コンクリートの小規模な造りである。

内部は銀行店舗という性格上、意匠に特筆すべきものはないが、外観は赤煉瓦風の壁体に、玄関、柱頭、窓周りを幾何学的模様で施し、その部分は「洗出し」で石造風に<sup>こしら</sup>え、盛時の“辰野式”にはほど遠いが、大正期のモダンデザインを表現している。

百三十銀行は、国立銀行条例（明治5年11月制定）に基づき、明治12年（1879）まで全国的に創立された153行の一つで、大阪を本店とする銀行であった。八幡支店は、若松支店（明治31年7月開設）の八幡派出所として、明治37年（1904）10月今の八幡東区春の町五丁目内に開設された。この派出所の開設は八幡に

おける近代銀行の草分けでもあった。同39年12月西本町に新築移転とともに八幡支店に昇格、さらにこの建物を現在地の北東約80mの位置に新築し移転した。大正12年（1923）11月、合同により安田銀行八幡支店となり、百三十銀行八幡支店は消滅した。その後昭和14年（1939）11月までこの建物は安田銀行が使用している。

その後この建物は旧八幡市によって戦災復興事業で現在地に移され、下水道局の資材倉庫として利用されていた。平成4、5年度に修理工事を実施し、平成5年（1993）10月から貸ギャラリーとして活用されている。

建物の規模  
建築面積 209.32㎡